

第19回海外日本語教育研究会
2014年1月25日

フィリピンの状況からわかること

雄谷 進

2011年5月～2013年5月
マニラ日本文化センター派遣

本日の内容

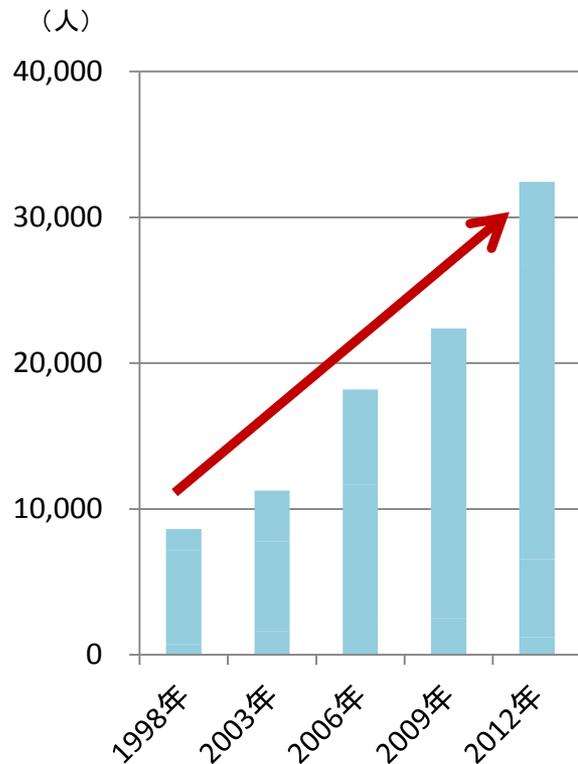
- フィリピンの日本語教育の特徴
- 大学の事例～ミンダナオ国際大学
- 民間日本語学校の事例～日本語研究センター
- フィリピン人教師へのインタビュー

1. フィリピンの主な日本語教育地域

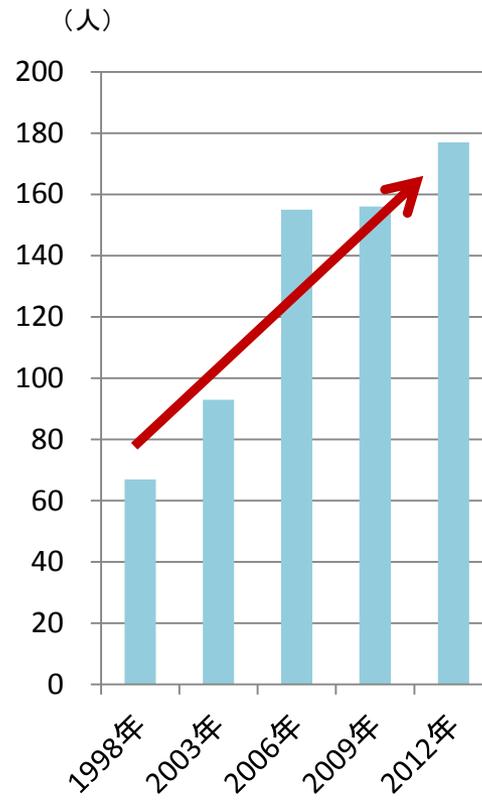


2. 学習者・教師・機関数の推移

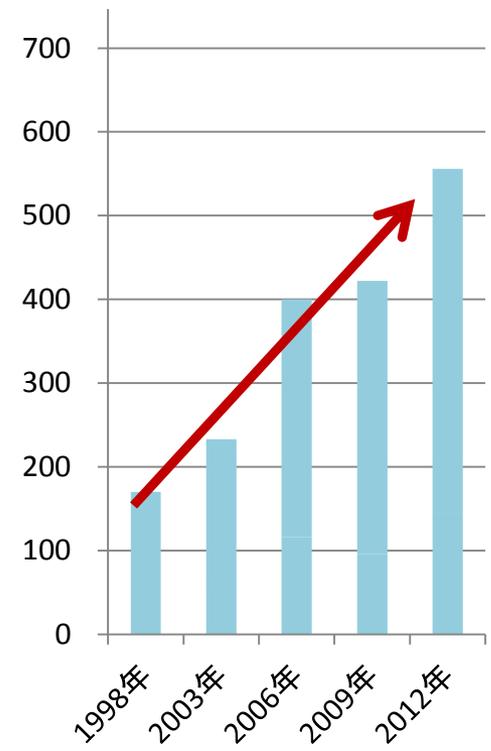
学習者



教師



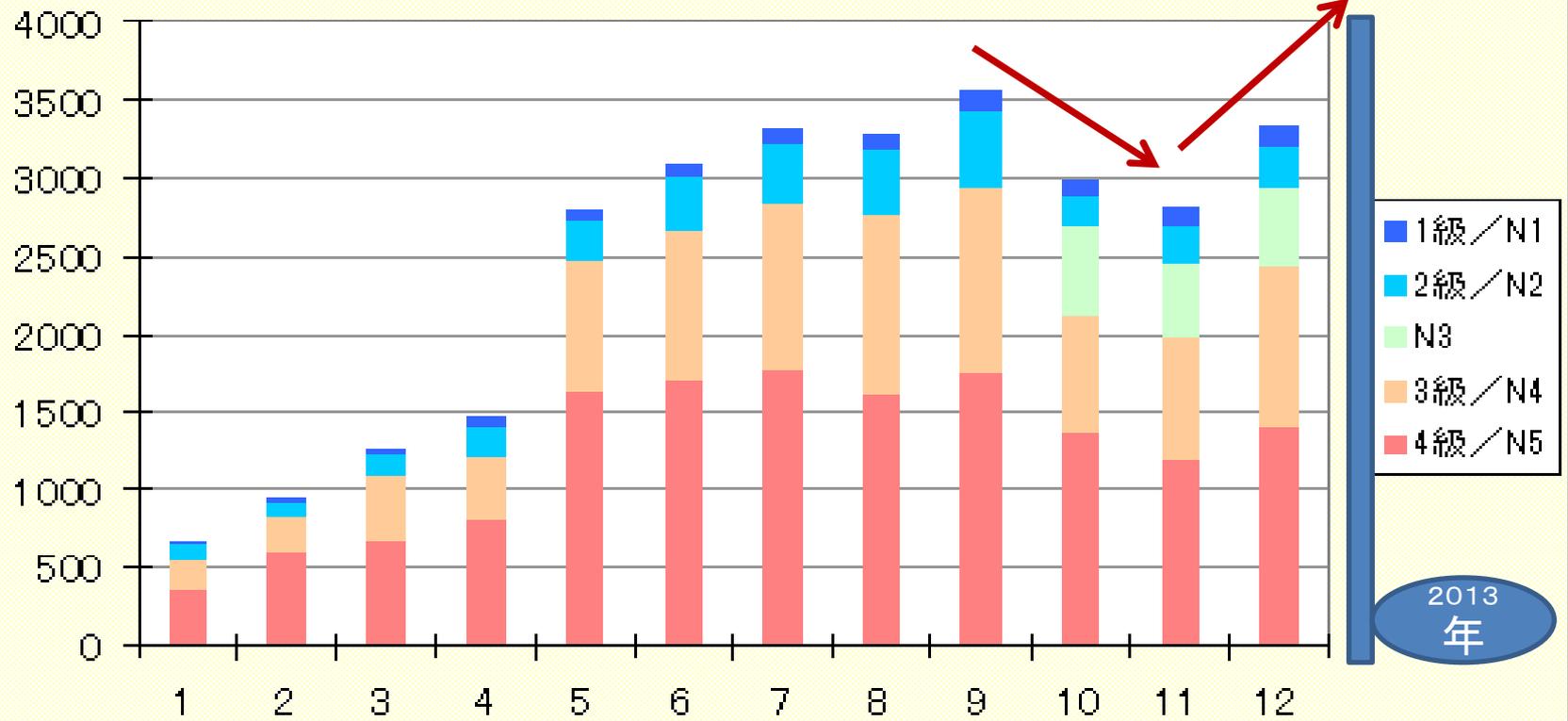
機関



国際交流基金日本語教育機関調査結果より

3. 日本語能力試験(JLPT)応募者推移

フィリピンJLPT応募者数推移(2001~2012年)



2013
年

2012年12月
マニラ:2455名
セブ : 544名
ダバオ: 327名

4. 日本語学習者増の背景

- 1) 大学における選択外国語科目
- 2) 「China + 1」 としてのフィリピン
- 3) IT関連企業での日本語教育
- 4) 高校における日本語教育導入
(2009年からスタート)

4. 日本語学習者増の背景

1) 大学における選択外国語科目

- ・副専攻(5校、マニラ4校、ダバオ1校)
- ・選択外国語科目

2009年度	機関調査	大学64校
2012年度	機関調査	大学74校

4. 日本語学習者増の背景

2) 「China + α 」 としてのフィリピン

「China + α 」とは、

中国一極集中とも言われる日本企業の海外拠点を中国以外のいくつかの国におき、リスク分散化

日系企業進出 → 企業内日本語教育

5. 日本語の学習後について

1) フィリピン国内での日本語使用

日系企業、サービス産業

2) 日本での日本語使用

日本における企業への就職、
EPA(看護師・介護福祉士候補者)、
技能実習生など

6. フィリピンの日本語学習者の傾向

1) 日本語を少し学んでみたい

文字学習なしで、簡単な会話

日本文化に関心があり、少しでも触れてみたい

例:『まるごと 日本のことばと文化 入門』

2) セルフ・ラーニング

日本と同様に通勤・通学に多くの時間

仕事・学業が忙しい

コンピュータには強い

例: 学習に役立つサイト紹介

Eラーニング+クラス授業

大学生への「役立つサイト紹介」

現状	・大学のカリキュラムには タッチできない
対応策	・「役立つサイト紹介」特別授業の実施
結果	・大学生に好評。多くの学生から 「無料で、こんなに多くの便利なサイトがある」「サイトを使って勉強してみたい」との声 2011年度 大学側と交渉 → 2012年度 新規 245名受講

7. 教師について

1) 教師のレベルアップ(教授法)

①マニラ『教師研修』コース

②地方『教師研修』コース

③教師に役立つサイト紹介

教師研修

- a. 経験の浅い教師・教師希望者(年2回)
- b. 現役教師
(年8回、文字、文法、会話、聴解、
日本事情など)

受講者:10~14名ぐらい
さまざまな背景

8.今後の課題 ①

若手日本語教師の育成

30代後半、40代、50代のフィリピン人教師多い



将来に向けて若手教師育成の必要性

8.今後の課題 ②

地方の教師支援

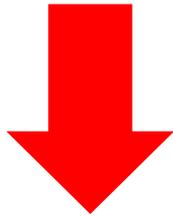
地方における日本語教育も一つの柱
(日本との接触が少ない地域でも、日本語への
関心はある)



日本語を教えられるフィリピン人教師が少ない
地方支援を継続して行えるのか

8.今後の課題 ③

教師の日本語力アップ



教師の日本語レベルが向上しない限り、
日本語を学ぶ学生に日本語を
勉強し続けてもらうことは難しい。